

## 今日の説教のポイント <使徒言行録8章26節~40節>

先週、サマリアの人々がフィリポによって信仰に導かれたことを聞きました。今日の箇所ではエチオピア人が信仰に導かれます。そして10章でいよいよ、神様がユダヤ人だけではなく、神様の招きに応える者なら誰でも救われることが示されるのです。聖書の福音は民族の壁、あらゆる壁を越えて広がって行くものなのです。

### ①「彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた」(28)

ここを読んで覚えさせられることの一つに、このエチオピア人の聖書に向かう熱心さがあります。彼は異邦人、それも旧約聖書では神の民には加われないとされた宦官でした(申命記3:2)。その彼がエルサレムに礼拝に来、帰り道でイザヤ書を読んでいたというのです。この熱心さに神様が目を留められて、フィリポを特別にお遣わしになったのでしょね。彼の姿に学ぶ所多しです。

### ②「彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。『彼は、羊のように屠り場に惹かれて行った。~彼の命は地上から取り去られるからだ。』」(32~33)

聖書(この時は旧約聖書)を熱心に読んでいた彼が思い巡らしていたのは、イザヤ書の53章でした。さすがと言うほかありません。イエス様の時代から何百年も前に語られた言葉。今の私たちが読むと、イエス様のことを描いているとしか思えず、驚かされます。否、ここを読むとイエス様の死と復活の意味が初めてよく分かる、と言った方が正しい箇所です。そこに彼は目を留め、「一体、これは誰を指すのか」と思い巡らしていたのです。

「読んでいることがお分かりになりますか」とフィリポに尋ねられた彼は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んで聞いたのです。信仰を求める時の手本となる姿がここにあります。聖書のメッセージ、それは私たち人間が自分の頭で考えて分かることを越えています。神様が為して下さることについてだからです。

### ③「宦官は言った。『ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。』~フィリポは宦官に洗礼を授けた。」(37~38)

洗礼についてもフィリポから話を聞いたのでしょうか。イエス様が、「私を受け入れる者はこれに与りなさい」と言われたことを。信仰者になるとは、「私が信じたらいい」というものではなく、神様の求めに素直に応答していく者となる、ということの意味しています。洗礼を受けるとは、その最初の行為なのです。

### ④「主の下に集って来た異邦人は言うな。主はご自分の民と私を区別される、と。宦官も、言うな。見よ、私は枯れ木にすぎない、と。なぜなら、主はこう言われる。~追い散らされたイスラエルを集める方、主なる神は言われる。既に集められた者に、更に加えて集めよう、と。」(イザヤ書56章3~8節)

旧約聖書にあるこの預言が、イエス・キリストによって成就したのです!